

〔認知症対応型共同生活介護用〕

1. 調査報告概要表

作成日 平成19年9月28日

【評価実施概要】

事業所番号	3072400538
法人名	株式会社イクロス
事業所名	グループホームパール白浜
所在地	〒649-2211 和歌山県西牟婁郡白浜町2 9 2 7－8 0 (電 話) 0739-42-3570
評価機関名	社団法人日本社会福祉士会和歌山県支部第三者評価委員会
所在地	和歌山市太田4 2 1－1 駅前東ビル4 階F 室
訪問調査日	平成19年9月15日

【情報提供票より】 (平成19年8月24日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和 平成 15年 8月 1日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	11 人 常勤 2人, 非常勤 9人, 常勤換算 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り
	3 階建ての ～ 3 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃 (平均月額)	55,000 円	その他の経費(月額)	70,000 円
敷 金	有 (円) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (100,000円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 800 円		

(4) 利用者の概要 (8月 24日現在)

利用者人数	9 名	男性 0 名	女性 9 名
要介護1	1	要介護2	2
要介護3	2	要介護4	3
要介護5	1	要支援2	0
年齢	平均 84.4 歳	最低 69 歳	最高 97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	白浜はまゆう病院
---------	----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

南紀白浜温泉にあった保養所をグループホームとデイサービスに改装して運営しているため、民家の風情はないが空間的にも余裕がありゆったりしている。南紀白浜という景勝地の高台に位置していることもあり、各部屋からの眺望は良い。風呂は温泉であり、入居者も入浴を楽しんでいる。グループホーム付近に民家や商店はなく、近所の人々がたまに花の苗を交換に訪れる程度で、地域に溶け込む環境にはないが、デイサービスを併設していることもあり、ここに通所する利用者との交流は活発である。この特徴を生かして、事業所の社会性は保持できている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況 (関連項目: 外部4)
	前回評価では地域との関係作りが主な改善課題として取り上げられているが、立地の問題から十分な地域との交流がなされないために苦労している。広報活動などグループホームの役割を地域の人たちと共有していくことが求められる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4)
	グループホームの立地条件が地域との連携といったものになじみ辛いところではありますが、その中でも独自性・個性をそれぞれの職員が理解する意味で自己評価を活用していくことを期待します。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6)
	2ヶ月に1度運営推進会議を開催できていて、委員に対する現状報告は行えています。今後、具体的な討議内容をグループホームの運営に積極的に活かし、地域との交わりをより深めていくことを期待します。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8)
	家族会の実施や、日々の家族との面接などを通じて、家族との連絡の頻度はヒアリングからも高いように思います。今後は、その中から、ご家族の本音の部分をしてできるだけ受け止め、家族の声を反映し良いホーム作りをしていくためにも、運営推進会議と家族会との連携など様々なアイデアを出していく事を期待します。
重点項目④	日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3)
	グループホームの立地条件の問題もあって、地域との関係性をどうしていけばよいのかまだ方向が定まっていない時期にあると思います。他のグループホームの取り組みや、運営推進会議の意見などを参考にしながら、より具体的な連携を模索することを期待します。

2. 調 査 報 告 書

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	全ての職員が特に倫理綱領6項にある「グループホームを地域に開かれたものにする」と共に利用者が地域社会の一員として生活することを支える」とあることを十分理解しその理念に沿って行動しようとしているが、地域密着型サービスに法改正され評価項目も様変わりして地域との交わり方について戸惑いがある。	○	地域密着型サービスとして何が大切かを話し合い独自に作りあげる理念であることが求められる。今後、重要事項説明書の内容などを含めてそれぞれの職員と議論しながら再考していくことを期待します。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	介護理念は全ての職員が常に意識して共有できるようにし、対応が難しい場合にもそれに立ち返って意見を出し合っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	立地的に不利な面はあるが、現在のところ十分に実施できているとはいえない。法改正以前より入居している方がほとんどで、住み慣れた地元からの入居者は少ないため地域へ溶け込むことが困難な状況にある。	○	地域との交流を一種のイベント止まりにするのではなく、ともに暮らす地域住民の一員として、地域で必要とされる活動や役割は何かを考え取り組んでいく努力を期待します。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	常に評価項目を念頭に置いて改善に取り組んでいる。	○	職員全体で改善計画を作成するなどより質の高いサービスを具体的に実践できる体制を職員の総意でつくりあげていくことを期待したい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町職員・地域包括支援センター職員・地域住民代表者・利用者家族の代表者をメンバーに運営推進会議を2ヶ月に1度開催しているが、委員への報告が中心となってしまう。しかし、メンバーからの率直な意見が聞けることもあり、ホームのあり方を模索している。	○	特に地域代表の方については、気軽にグループホームへ訪問してもらえよう雰囲気をつくり、運営推進会議での意見などがケアに反映されているかチェックしてもらうなどの体制づくりをするといった、機能的な運営推進会議になることを期待したい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議の委員には理解のある市町村職員を配置している。また、地域包括支援センターとの連携も行なえている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族会を開催（昨年度から2回開催）してその際に近況を報告するなどしている。また、必要な相談事項は面会時及び電話で必ず面接するようにしている	○	家族会は非常に効果をあげていると思うが、頻度の問題があるので、様々な通信手段を活用したリアルタイムでの報告ができるような体制を期待したい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会ではアンケートをとるなどして家族から積極的に意見を収集し、日ごろの面会のときも気軽に話しかけるなどの積極的な関わりをおこなっている。	○	事業所以外の外部の人に意見・苦情を表せる機会や場があることを繰り返し説明し、家族等の意見が運営に反映できるようにすることが求められる。また、家族会でも職員が席を外し、家族同士での意見を出しやすい場作りをしていくことが求められる。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ここ1年の間に離職があったが、そのことによって馴染みの関係が極端に崩れるようなことはなかった。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は職員育成のための具体的な計画を立てているわけではないが、積極的に研修などに参加できるよう勧めている。しかし、職員が少ないため研修にいけるほどの余裕がある勤務体制になっていない。	○	運営者には管理者や職員に対して計画的に研修に参加できる体制を構築し、同時に職員に対してスーパービジョンを実践できる体制づくりを期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営者はかかわる機会は少ないが常々、そういったことを取り入れてサービスの質を向上するよう進めている。同地域で相互実習を年1回行っており、他事業所での取り組みの体験をケアに活かせるように努力している。	○	他のグループホームとの職員交換などを通じて、職員が事業所以外の人材の意見や経験を活かしながら、より具体的で効果的なケアが実践できることを期待したい。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前には家族と共に何度か見学に来てもらって、本人が安心し納得した上で利用を開始できるようにしている。		見学の延長で短時間過ごしてもらったり今まで関わってくれていた人に来てもらえるように働きかけていくことも大切である。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	和やかや雰囲気のなかで、入居者と語らい、本人ができること、出来ないことを見極めようとしている。職員は利用者から笑顔をもらうことで働く意欲につながっており、何かを教えてもらうというような形として目には見えないものであるが、笑顔を引き出すような関係作りを築けている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の思いや意向の把握に努め、本人本位の暮らし向きになるよう検討している。	○	例えば、なぜ帰宅したいという行動をとるのかと言った原因の理解を深めるには、より綿密なアセスメントが必要であるため、実際ケアを行なうスタッフが本人と共に自宅へ出向いて、ケアのヒントを得るなどの広い視野をもって思いや意向を把握することを期待する。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	入居前、自宅で生活していた頃のケアプランを参考にしたり、本人や家族の要望を聞き、本人本位の生活のための介護計画を必要な関係者と十分話し合って作成している。	○	ケアプランに掲げられた目標は実行可能なものでなければならないので、本人や家族の意向を十分反映させた上で、より具体的なものにしていくことを期待する。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	職員が記録する利用者の状態変化や状況・利用者の言動や家族の意見を踏まえながら、他の職員とも話し合いながら、計画を作成している。	○	記録については単なる状況の羅列ではなく、現在のケアに対する身体的心理的な利用者の状況の把握がとても重要であるため、見直しの材料となる記録作りができることを期待する。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設事業所としてデイサービスセンターだけが入居者の希望に応じてデイサービスセンターのプログラムと一緒に参加してもらうなど柔軟な支援をしている。また、デイサービスセンターの利用者には地域の方ももちろんいて、入居者との格好の交流の場になっている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院が施設のすぐ近くにあり、医師との連携もおおむねスムーズである。加えて、この病院出身の訪問看護師の協力も得ており、より適切で迅速な受診支援ができています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に向けた方針はあり、実際事業所内での看取りも経験している。	○	入居の時点から終末期に向けた方針を家族や職員が共に共有していくことを期待する。そして、方針は常に更新していけるよう日ごろからの心がけが求められる。
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	記録を作成する場所はケア現場とは隔離した場所にあり、職員の意識と共に個人情報の取り扱いには十分な配慮がなされている。また、言葉かけの時は全体にではなく、本人にわかる程度にそっと話しかける場面も見られ、個々への配慮がされている。	○	介護歴が長くなると(利用者の方との付き合いが長くなると)、つい気が抜けて利用者に向けて発する言葉の内容や語調が荒くなりがちです。常に職員同士(またはリーダーが)で観察・助言しあう関係作りを期待したい。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースや希望、心理的な状況を常に考慮しながら、できるだけ個別性のある支援を行うように努力しているが、職員数が限られている中での勤務体制なので制限されることもある。	○	現在取り組まれている以上に、利用者ひとりひとりのペースを守るため、日々の中で職員同士が工夫していくことを期待したい。

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	1人ひとりの希望や持てる力を活かしながら、準備、食事、片付け等をするようにしている。職員は利用者と同じものを食べるということはしていないが持参した弁当のおかずを取替えしながら食事中の会話を楽しむなど工夫されている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	本浴場の入浴時間は決まっている。小浴室は希望にあわせてゆったりと入浴することができるよう努力はされているが、職員の勤務体制により希望に添えない場合もある。お湯は温泉である。	○	自宅、地域からの延長上にホームの生活があることを考慮し、なるべく自宅で生活していた習慣を継続できるように工夫されることを期待します
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの習慣や持てる力を活かし、無理なくハリのある日常生活が送れるような支援を行なっている。ADLの低下により、できる事や関心・興味が移行行くなか個々の役割や気晴らしの支援を試行錯誤している。	○	個々の性格を把握することで興味や関心事を引き出せるように努力されている。しかし職員から与えるのではなく、選択できる場面作り（例えば読書が好きな方を図書館へ連れ出し好きな本を選んでもらう）をもう少し工夫されることを期待します
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物、散歩、花の管理、野菜作りなど本人の望みにそって戸外に出られるようにしている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	特定の危険箇所には鍵をかけているが居室、玄関には鍵をかけていない。エレベータは利用者が利用できないように工夫している。建物内の行き来が頻繁にある利用者の方については上下階スタッフと一目でどこにいるのか分かる目印を利用している。	○	利用者一人ひとりの外出のくせや傾向をつかむことや、地域住民にも理解を深め、見守り声かけや連絡をしてもらえる関係を築いていくことで今以上に利用者の方が自由に出かけられる地域作りを期待します

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけしている	避難訓練は年に1回職員のみで実施している。夜間は職員配置が1名であるため、訓練は夜間時を想定して行っている。	○	運営推進協議会などを通じて、地域の人々の協力を得る働きを期待します。また、高台にあることもありますので、津波災害のあったときなどは、町とも協議しながら非難場所としての機能も兼ね備えていくことを期待します。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取状況を毎日記録し、職員が情報を共有している。	○	利用者の好みを配慮しつつ、全体の栄養バランスを町保健師や栄養士などの専門的な観点からチェックしてもらうことや、ボランティア（食生活改善グループ等）に協力を得て献立作りに取り組まれることが望まれます
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	保養所を改装した建物であり、構造上生活感を取り入れることは十分ではないが、不快な音や光が無いように十分に配慮している。	○	建物の構造上の制約はあるが、例えば裸足で過ごせる場所をもう少し増やしたりしながら、居心地のよい空間作りを目指してください。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居される前にご家族、ご本人と相談し使い慣れたものや好みのものを持ってきていただけるように相談している。	○	入居された後でも、ご自宅へご本人と一緒に出向き馴染みのものを持ってくるなどして、何が利用者にとって居心地が良いのかをしっかりと考えることを期待します。

※  は、重点項目。